

## イノベーションについて思うこと



経済産業省産業技術政策課長

齋藤 圭介

**Keisuke Saito**

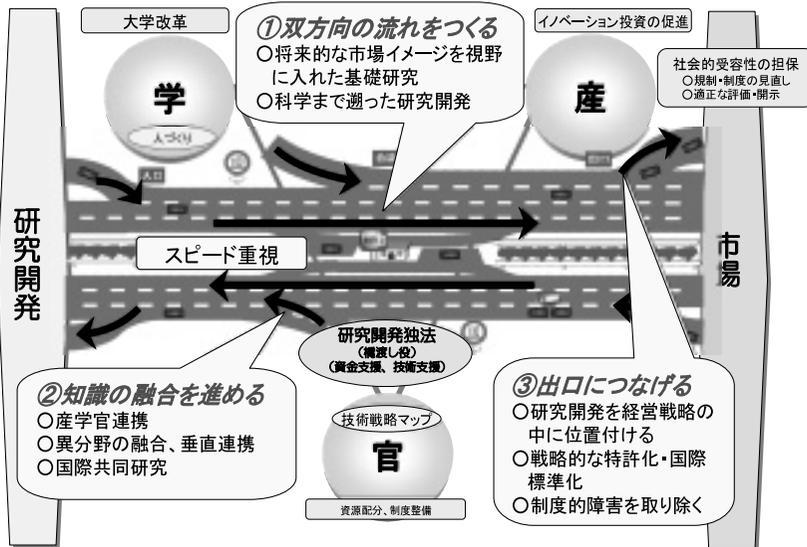
*Industrial Science and Technology Policy Division,  
Industrial Science and Technology Policy and Environment Bureau  
Ministry of Economy, Trade and Industry (METI), JAPAN*

「イノベーション」という言葉が使われるようになって久しいのですが、まだまだ日本語としてこなれているとは思えません。ただ、これに置き換わる、いい日本語がないのです。ひと頃「技術革新」と訳された頃がありましたが、やはり少し狭い意味になるようです。といいますのも、イノベーションには技術以外にも仕事の仕方そのものや在庫の管理の仕方など技術革新がなくても世の中の潜在的な需要を満足させてくれるような新しい、商品やサービスがあるわけです。ちなみに中国語では「創新」と書きます。さすが漢字の国、中国です。英語のイノベーションとほぼ同じ意味になっているかも知れません。

さて、イノベーションのすごいところはどこでしょう。私は「潜在的な需要」というところにあると思っています。企業の競争はいつの時代もどこの国でも大変です。この競争が価格競争一辺倒になってしまうと、いつか企業の体力は失われ、倒れてしまうかも知れません。そこで、イノベーションの登場です。人々はこれまでなかった新しい商品やサービスに興味を持ち、購入し、これらの商品やサービスを売り出した企業は儲かり、また、新たな研究開発やアイデアの結果を商品化し世の中に出していく。これが「イノベーションと需要の好循環」と呼ばれ、経済が拡大していく一つのやり方となるのです。

最近、「オープンイノベーション」という言葉もよく使われております。新しい製品やサービスを生み出す際に単独企業ではとても全ての関係技術や情報を生み出すことはできないため、国境を越え、大学や他の企業と連携・融合していくというものです。ますます複雑化する関係者が上手に連携することが必要となります。知財の取扱についてもルールが必要になると思います。

## イノベーションを生み出す仕組み「イノベーション・スーパーハイウェイ構想」



12

技術の進歩が早く、これまでのように「基礎研究」から、「応用研究」を経て「開発研究」に至るといふ、いわゆるリニアモデルが崩れていく中、これからは、シーズからばかりではなく、ニーズを越えた「ビジョン」とも言うべきあるべき社会の姿から、むしろ必要なタネを探していくことが必要になるかも知れません。経済産業省では「イノベーション・スーパーハイウェイ」と称して、これからの方向性を議論しております。

こうして、折角のイノベーションのタネが生まれたとしても、世の中に新しい商品やサービスが出て行くことはそれほど簡単でない場合が多くあります。これまでの商品、サービス、習慣など多くの障害が立ちちはだかるかも知れません。このような場合に、これらの障害を除去し、新しいものが世の中に出て行くことをスムーズに後押ししていくことが、私たち政府の大きな役割であると思っています。もちろん、危険なものやモラルが低下するものなど気をつけなければいけないところもありますが、やはり、新しい商品やサービスが世の中に受け入れやすくすることは重要です。これと同時に新しいものというのはその便利さや楽しさなど「光」の部分と危険などの「影」の部分という二面性が必ずあります。この「影」の部分人間は一人ひとりの心と行動で制御しなくてはならないと思います。そういう意味では、イノベーションが世の中に出て行くために、私たち一人ひとりの役割が大きいのかも知れません。